

資料

山口県生見川工業用水道事業の紹介

○ 事業の主旨

山口県瀬戸内海沿岸の東部に位置し、小瀬川を県境として広島県に隣接し、また、錦川の下流域に三角州、干拓地として形成された岩国地域は、その豊富な水資源を活用し、早くから合成繊維、パルプ工業が発展してきた。戦後はこれらに加え石油化学工業が進出し、従来の化学繊維、パルプと共に重化学地帯として一段と精彩を加えるに至ったが、これらの基盤となる工業用水については、錦川に余裕がないこと、また、企業進出、既設工場の増設などの工業用水の需要増大が見込まれたことから昭和60年3月に生見川ダムの築造により水源を確保し、予測される水需要に対処するため実施されたものである。

○ 事業の経緯

生見川工業用水道事業は生見川ダムより一旦、河川に放流した後、下流で取水し送・配水する計画としているが工業用水道施設の建設は、オイルショックを契機とした社会情勢や産業構造の変化等により、工業用水の需要が伸び悩み事業計画の見直しを余儀なくされるとともに、工程も大幅に遅れることとなったが、昭和63年3月に今津取水場が完成したことに伴い、受水企業の配水施設（自家用）を使用して、同年4月から31,200m³/日の一部給水を開始した。

その後、もう一方の牛野谷取水場について用地取得を行ったものの、工水需要の低迷から取水場及び配水施設等の残工事については、平成3年度から進度調整を図ることとなり未施工のまま現在に至っている。

○ ユーザーの概要

(平成19年4月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
製紙	1	31,200
合計	1	31,200

○ 工業用水道施設の概要

錦川下流の今津取水口より表流水を取水し、管径900mmの導水管 (L=66m) によりポンプ場に導水してい

る。(ポンプ場はユーザーの自家用施設であり、その入口が責任分界点)

ポンプ場からユーザーまでの送・配水施設についてはユーザーの自家用施設となっている。

○ 事業の特徴

- ・ 導水管のみが山口県企業局の所有となっている。

○ 工業用水道概要図



○ 山口県企業局ホームページアドレス

<http://www.prefyamaguchi.lg.jp/cms/a40100/index/>